

「自分の身は自分で守る」

水は大切だつてよく言うけど何がどう大切なのでしようか。私は実際、水が大切だと思つていても身でそう感じたことはあまりありません。でも、もし災害が起きたときはどう感じるのでしょうか。

災害が起きてしまったとき、大切になるのがライフラインの確保と復旧です。ライフラインは、生活に不可欠な水道、電気、ガスなどの供給システムのことで、『生命線』とも呼ばれています。その中野一つにある水道の水道管が災害によって被害を受ければ不自由な生活をする事になります。平成十五年に発生した宮城県穂首の地震では、多くの家が断水し、完全復旧には、二十二日もの長い時間がかかりました。また、阪神・淡路大震災では約百三十万戸が断水し、完全復旧には三か月もかかってしまいました。

山添村立山添中学校 二年

奥村 彩美

日常生活において、私たちは一人一日あたりおよそ二百四十リットルの水を使っています。ですが、阪神・淡路大震災の時は、震災直後一週間で給水量は一人一日あたりわずか十六リットル。二週間経つても、一人二十リットル程度しか水を得られません。

人間は、水と睡眠さえしつかりとつていれば、たとえ食べ物が無かったとしても二、三週間は生きていられると言われます。しかし、水を一滴も取らなければ、せいぜい四、五日で命を落としてしまいます。となれば、さきほど言った地震の中で、給水量がとても少ないので、脱水症状を起こして何らかの症状や死に至る可能性も無くはないと言えるのです。そこで、災害時の断水に備えて各自治体でも様々な対策を行っています。一つ目は、ある地域で緊急時の給水に備え

て、二キロメートルの距離内に一か所の割合で給水拠点を設置しています。この給水拠点は、平成十七年に百九十五か所あります。そのうち七十四か所が震災対策用王救急水槽になっていて、全体で約百二立方メートルの飲み水が確保されています。これは、設置されている地域内約千二百万人に対して一日三リットルの給水を行うとして、約四週間分量に相当します。

二つ目は、非常時における生活用水、あるいは飲料水の水源として、防災用の井戸を所有している学校や公園もあります。神戸の震災時には民家の井戸水が役に立ったこともあり、地域内の避難場所に新たに井戸を設置し、『災害時応急井戸』として、井戸のある市民に登録を求める自治体も増えています。

三つ目は、雨水の有効利用です。東京ドームや大阪ドームなどのドームでは、屋根の約一万六千立方メートルに溜まった雨が、周辺の水路を通って貯水槽に集まるシステムで、最大三千トンの貯蔵が可能です。

このような三つの対策がもつと幅広く行われるようになれば災害時に気持ちの面でも安

全の面でもより良くなるのではないのでしょうか。ですが一番簡単に身近で行える対策は『自分の身は自分で守る』ということなので、災害時にすぐに持ち出せる場所にペットボトルや水の入ったポリタンクを置いておくことだと思いません。こういった対策は万が一ライフラインが寸断されても途切れることなく水分補給ができ、命綱にもなると思うので頭の片隅にでも置いておき、いざという時は自分の身を守るようにしておかないと思っ